

## 事業計画書

1. 事業名称 松戸の農業をサポート・農業ボランティア養成事業

2. 実施主体

- 団体名： 松戸農業サポート協議会 野良の会
- 事業担当課： 農政課

3. 取り組もうとする課題

(どのような問題を解決することを課題としたのか。その背景なども含めて記載してください。)

- ・松戸市内の農家戸数は、平成17年 729戸→平成22年 649戸 89%と減少し、特に1.0ha～2.0haの中核的農家は、239戸→200戸 83%と、その減少が目立っている。その原因は主に農家の高齢化等による人手不足と思われる。それに伴い耕作放棄地は 対耕地面積比 2.5%→3.1%と増加している。(出典；平成22年農業センサス・松戸市HPより)
- ・今後この傾向はより強まり、人手不足により年々農家戸数は減少し、耕地面積も減少、耕作放棄地も増加が予想される。
- ・一方では市民の中にも土に触れたい、農作業の手伝いをしてみたいと考える人が家庭菜園のブームなどから見てかなりの人がいると予想される。
- ・人手不足によって戸数減少、規模縮小、耕作放棄地増加が懸念される農家と、土に触れてみたいと考える市民の両者を結びつけることにより、農家は農作業のサポートを受けられ、市民は農業のサポートボランティアをしながら楽しく生き活きとした仲間づくりや新しいコミュニティ形成につながる。そんな仕組みがあれば両者にとってプラスだと考える。
- ・農業ボランティアを広げることにより、農家の人手不足解消に寄与し、松戸の農業を応援したい。
- ・松戸のシニア層の増加は今後顕著となるが、この人々を農業サポートの中に取込む事で、土に触れる仲間づくりを促進し、生き活きと生活するシニア層が増えることを期待したい。
- ・農家と市民の間でのコミュニティ形成が期待できるため、市民の農業に対する理解が進み、地元農産物の消費や地元の農業を継続していく意義を考えることにつながる。

4. 事業内容及びスケジュール

(3の課題に取り組む上で、実施する事業及び具体的なスケジュールを記載してください。)

### ★事業内容

- ①農業ボランティアについての周知・広報
- ②農業ボランティアの募集・養成
- ③受入れ農家の募集
- ④農家とボランティアのマッチング
- ⑤ボランティアの派遣

(日程、場所、実施内容を具体的に記載してください。)

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4～6月	① 春のボランティア募集 ② 春期ボランティア養成講座	① 広報、ミニコミ紙、ポスター ② 農業指導経験者、農業経験者 講座場所；座学；JA会議室 現地研修；農家圃場
7～9月	① 受入れ農家募集	① 関係機関と連携で農家の選定 ；ボランティア制度の理解者（農家）
10～12月	① 秋のボランティア募集 ② 秋期ボランティア養成講座	① 広報、ミニコミ紙、ポスター ② 農業指導経験者、農業経験者 講座場所；座学；JA会議室 現地研修；農家圃場
1～3月	① 農業講演 ② 先進地研修会 ③ ボランティア研修会	① 学識経験者 ② 援農システム先進地；神奈川、埼玉 ③ ボランティア制度研修（含む農家）
4～3月	◎毎月マッチング	◎毎月20日希望締切、25日摺合せ、通知

## 5. 事業に期待する成果

(事業を実施する上で、どれだけのことを達成したいのか。その目標を数値などで記載してください。)

### ①ボランティア員数、受入れ農家数の変化

	平成25年	26年	27年
ボランティア受入れ農家数	10	15	20
ボランティア従事者数	30	45	60

数字の根拠（先進地の実態を参考）；

ボランティア従事者数は受入れ農家数の3倍の要員を必要とするものとした。

### ②受入れ農家の作付面積の拡大

	平成24年	25年	26年	27年
農家戸数	6	10	15	20
作付面積	6ha	10ha	15ha	20ha
ボランティア導入後	6.6ha	11ha	16.5ha	22ha
耕作放棄阻止面積	0.6ha	1ha	1.5ha	2ha

数字の根拠；受入れ農家の作付面積は平年よりも10%拡大につながる。と考えた。

よって、この拡大面積が耕作放棄の阻止につながる想定した。

## 6. 協働の意義

(協働の必要性、協働で事業に取り組むことの効果、提案者や市のメリットなどを記載してください。)

団体にとってのメリット

- ① 会に対する信用ができる
- ② ボランティア・農家の応募者に信頼と安心感を持ってもらえる。
- ③ ボランティア養成時の指導者派遣などに大きなバックアップとなる。

市にとってのメリット

- ① 行政にとって馴染みにくいマッチング業務を委託できる。
- ② 農業について理解度をあげる窓口になる。
- ③ 農業の保全について、行政・農業機関（JA）・民間と3者一体となった活動が可能になる。

## 7. 事業実施の役割分担

### ■ 提案者の役割

(提案者が行うことを具体的に記載してください。)

- ① 農業ボランティアに関する講演会の開催
- ② ボランティア・受入れ農家の募集
- ③ ボランティアの養成
- ④ ボランティア・農家のマッチング
- ⑤ ボランティアの派遣・調整

### ■ 担当課の役割

(市が行うことを具体的に記載してください。)

- ① 講演会、養成講座などへの講師派遣・斡旋への協力
- ② ボランティア・農家募集にかかわるバックアップ

## 8. 将来の展開

(このモデル事業の成果をどう活かし、今後、事業展開していきたいのかを記載してください。)

- ① 通年型の「農業塾」 1年ないし2年で修了タイプの常設講座の運営。
  - ・家庭菜園の受託管理も考える。
  - ・農業塾の塾生は、松戸市の人口の20%を占める60～75歳のシニア層を中心にその対象とする。
  - ・遊休地利用の家庭菜園運営者、および農業ボランティアの予備軍を常時育てる。
  - ・授産所関連の施設としても考える。
- ② 民間の地場農産物「直売所」を運営し、「地産地消」を進めることに寄与できる。

## 事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金額	積算内訳
	提案者	会費	124,000 円
	自己資金合計（a）	124,000 円	
	労力換算額計（b）	268,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	180,000 円	
	資金合計額（d）（a+c）	304,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 50 万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項目	金額	積算内訳
担金の交付対象経費	講師謝礼	80,000 円	農業講演会講師料 50,000 円 農家現地講習料（養成講座時） 5,000 円×6 回
	印刷費	60,000 円	ポスター、パンフ、チラシ印刷
	消耗品費	20,000 円	紙、インク、その他
	先進地研修費	20,000 円	先進地研修謝礼・資料代
	施設使用料	20,000 円	講演会会場施設使用料
	対象となる経費合計額（e）	200,000 円	
その他経費	スタッフ会議費	10,000 円	打合せ会、会場費など
	通信費	19,000 円	FAX、電話料
	ネット使用料	68,000 円	ネット使用料 12 か月分
	その他消耗品費	7,000 円	
	その他経費合計額（f）	104,000 円	
	事業費（g）（e+f）	304,000 円	収入合計額（d）と同額

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	マッチング	96,000円	(4名×4時間×12回)×500円
	シフト体制検討会	81,000円	(9名×3時間×6回)×500円
	ボランティア養成講座	40,000円	(10名×4時間×2回)×500円
	ボランティア現地講習会	24,000円	(2名×3時間×8回)×500円
	新規受入れ農家説明会	27,000円	(9名×3時間×2回)×500円
	合計 (b)	268,000円	